

イブキヌカボ *Milium effusum* L.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 12。温帯性の植物で、愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

多年生草本。根茎は横にはう。稈は単生または少数が束生し、無毛、高さ 60~120cm になる。葉は互生し、短線形、長さ 10~20cm、幅 1~1.5cm、白緑色、先端は鋭頭、葉鞘は無毛、葉舌は白色の膜質で、長さ 3~10mm ある。花期は 6~7 月、円錐花序は長さ 15~25cm で、各節から 2~5 本の枝を直角またはやや下向きに開出し、その先端部に数個の小穂をつける。小穂は有柄、卵形、長さ約 3mm、淡緑色、1 個の小花からなる。小花は、熟すとすぐに苞穎を残して脱落する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 81447, 2007-6-2)。西：5 稲武 (芹沢 81407, 2007-5-28)。6 設楽西部 (名倉、加藤等次 s.n., 1957-6-2) で採集された標本もある。4 津具で 1978 年に採集された標本もあるという (小林 2006)。愛知県のものは、いずれも本種としてはかなり小型である。

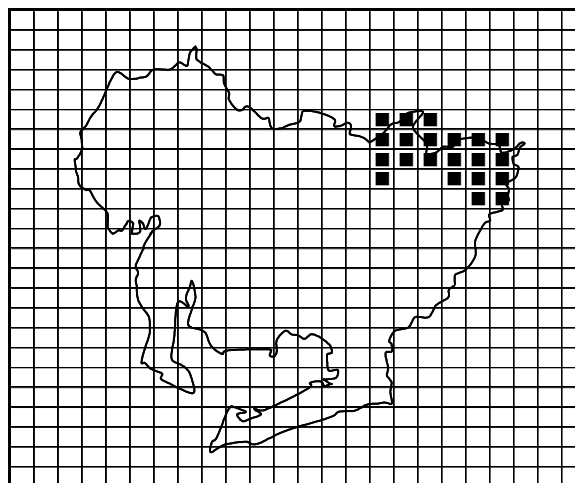
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。全国的にはそれほど希少な植物ではない。

【世界の分布】

北半球の温帯~亜寒帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在しているだけで、個体数は少ない。伐採や造林地の手入れ不足により減少している。

【保全上の留意点】

造林地に関しては、間伐等の適切な手入れが必要である。

【特記事項】

直角からやや下向きに開出する花序の枝が特徴である。伊吹山の地名がつけられているが、全国に分布する植物である。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.225. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.359, 平草本Ⅰp.119, 平新版Ⅱp.57.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.102-103. 平凡社, 東京.